

伊豆縦貫自動車道は今どうなっているの？

伊豆縦貫自動車道
No.13

東駿河湾環状道路

建設工事が進んでいます。



三島市内施工現場
＜平成17年4月時点＞

天城北道路

平成18年4月に本立野トンネルが貫通しました。



【国土交通省沼津河川国道事務所HPより】



【国土交通省沼津河川国道事務所HPより】



伊豆縦貫自動車道の北側は
工事が進んでいるね。

河津下田道路

環境への影響の調査をしています。



PI*での提言ルート帯
【国土交通省沼津河川国道事務所HPより】
※PIとは公共事業の実施にあたり計画段階で地域住民の意見を反映して進めていく手法です。

伊豆縦貫自動車道に向ける想い...

平成18年7月18日(火)に伊豆縦貫自動車道の早期全線開通を目指して、伊豆縦貫道の建設促進期成同盟会(行政)と、推進期成同盟会(民間組織)の合同促進大会が東京で行われました。当日は静岡県知事や国会議員、伊豆地域の方々など、約130名が出席し、伊豆縦貫自動車道の早期実現へ向

けた要望内容を確認し、国土交通省等へ伊豆縦貫道の早期完成を要望致しました。

また、この大会では共立湊病院の小田和弘院長によるご講演も行われましたので、一部ご紹介します。

「伊豆縦貫自動車道と伊豆の医療」

社団法人 地域医療振興協会
共立湊病院 病院長 小田 和弘

患者さんにも、お医者さんにも
“天城越え”は大変なんだね！



伊豆南端の医療事情は非常に厳しく、特に救急医療の整備は喫緊の問題である。大きな病院建設も簡単ではないため、今後も順天堂静岡病院等の管外病院への搬送は必要だが、天城を越えて往復4時間にも渡る搬送は、患者への負担はもちろん、医師にも負担が大きい。近年ヘリコプターで搬送することもでき、大変便利にはなったが、天候・時間の制約があり、すべての患者を適切に搬送できるわけではない。伊豆縦貫道はこうした搬送方法改善にも大きく寄与する道路であり、早期の開通を願うものである。

(講演内容より抜粋)

お問合せ ▶ 建設課伊豆縦貫道係 ☎22-2219 FAX27-1007 E-mail: kensetsu@city.shimoda.shizuoka.jp

下田市内の指定文化財その14

国指定重要文化財

大日如来坐像

所在地 蓮台寺天神社
指定日 大正9年4月15日



天神社 大日如来坐像

蓮台寺天神社には、大日如来坐像が安置されています。この仏像は南伊豆地方に残る古い時代の仏像の中でも特に優れた作品の一つとして、国の重要文化財となっています。

天神社の大日如来坐像
大日如来は真言宗などの密教における宇宙の中心、根本仏とされています。

天神社の大日如来坐像は、高さ約1・15メートル、松材の寄木造りで、仏様が座った姿(坐像)をしています。頭には宝冠をかぶり、両手は金剛界大日如来の印である智拳印(左手の人差し指を立て右手でその指をにぎる)を結んでいます。

穏やかで優しい顔立ちや、肩から腕、胸から腹にかけての優美な曲線は平安時代の仏像の特徴を示しており、写実的で引き締まった体つきと、頭上に高く結い上げられた髻は鎌倉時代の仏像の特徴であるため、作られたのは平安時代末から鎌倉時代はじめにかけてと考えられています。

蓮台寺という寺院
かつて蓮台寺には温泉山蓮台寺という寺院があったといわれています。天平勝宝3年(751)に行基によって創建され、鎌倉時代まで続いたという伝説があり、寺のあった場所は定かではありませんが、大日如来坐像は蓮台寺の本尊であったと伝えられています。

蓮台寺という寺院
かつて蓮台寺には温泉山蓮台寺という寺院があったといわれています。天平勝宝3年(751)に行基によって創建され、鎌倉時代まで続いたという伝説があり、寺のあった場所は定かではありませんが、大日如来坐像は蓮台寺の本尊であったと伝えられています。



穏やかで優しい顔立ち

蓮台寺と大日如来
学問の神様である菅原道真を祭神とする天神社は、蓮台寺温泉のほぼ中ほど山腹にあ

ります。長い石段を登ると、正面に社殿があり、大日如来坐像はその傍らの収蔵庫に四天王像(市指定文化財)とともに安置されています。

近年、収蔵庫の床の傷みが進んだため、本年8月初旬に天神社氏子と蓮台寺区の方々によって修理され、あわせて上原仏教美術館学芸員による調査と仏像クリーニングが行われました。



蓮台寺 天神社(向って左が収蔵庫)

仏教彫刻として優れているだけでなく、地名が残るだけとなった蓮台寺という寺院の記憶を今に伝える大日如来坐像は、まさに地域の宝といえることができます。

アクセス
下田駅より蓮台寺方面バス
天神下バス停下車徒歩3分
問合せ先
教育委員会生涯学習課
☎25055

樹の祭 vol.57

毎年、横須賀市の『ペリー上陸祭』、伊東市の『按針祭』に下田市長としてお招きをいただきます。『ペリー上陸祭』の参加者は下田の『黒船祭』に出席された米海軍の方々が多く、再会を喜びあいます。

英国人のウィリアム・アダムス(日本名・三浦按針)は1600年オランダ船リーフデ号で九州豊後に漂着します。アダムスの人柄に魅せられた徳川家康の知遇を受け、伊東の松川河口で日本初の様式帆船を建造しました。この業績をたたえ、今年も伊東市制施行記念日である8月10日に、『第60回伊東按針祭』が開催されました。この式典にはイギリス、オランダ、メキシコ大使の代理やコーニッシュ米海軍横須賀基地司令官の顔も見られました。私も熱海市長、伊東市議会議員と共に献花をし、按針の業績に思いをはせました。黒船祭で大変お世話になった海上自衛隊横須賀地方総監部の小沢勇幕僚長が近く席にいらっしやうだったのでお礼がたがた少し話をさせていただきました。小沢さん！斉藤隆海将が統合幕僚

長(自衛隊全体の1)に吉川栄治海将が海上幕僚長(海上自衛隊の1)に就任されました。すごい人事ですね！「石井市長さん！これで海上自衛隊の黒船祭への協力態勢は盤石ですよ。護衛艦隊を下田に集結させることもできますよ」と冗談まじりに語ってくれました。ちなみに斉藤海将は15・16年に、吉川海将は去年と今年の黒船祭に横須賀地方総監として参加された方です。日本やアメリカをそれぞれの分野でリードしている方が黒船祭に参加されている事実、改めてすごいことだと感じました。

今年の夏は、梅雨明けが遅く、大雨や台風の影響、ガソリンの高値等で散々な結果に終わります。昭和59年には173万人の海水浴客がありました。昨年は60万人。今年はどうな数字になるのか心配しています。民間会社が行ったアンケートによると子供の6割近くがプール以外で泳いだ経験がないそうです。観光で生きてきた下田。夏だけに頼らない、魅力ある町づくりが必要です。

下田市長 石井直樹

